

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	昼光シミュレーション小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (光環境運営委員会)	
設置期間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>精度の高い昼光シミュレーションの実現、建築デザインへの新たなきっかけ(昼光による積極的な空間演出等)の提供、これまでに開発された昼光シミュレーションツールの普及促進、昼光に関する取得データの較正、昼光に関する統一フォーマットによるデータの整理、処理。</p> <ul style="list-style-type: none"> • これまでの成果の整理と公表。 • 2006 年度の講習会の開催に向けた委員間の役割分担。 	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：</p> <p>鈴木広隆(主査)(大阪市立大学)、松澤朋子(幹事)(九州共立大学)、吉澤望(幹事)(東京理科大学)、井川憲男(大阪市立大学)、上谷芳昭(京都大学)、梅宮典子(大阪市立大学)、大井尚行(九州大学)、古賀靖子(九州大学)、中村芳樹(東京工業大学)、原直也(関西大学)、三木保弘(国土交通省)、吉田貢(鹿島建設(株))</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> • 昼光光源 WG(昼光に関する取得データの較正、昼光に関する統一フォーマットによるデータの整理、処理。) • 昼光シミュレーション開発・普及・評価 WG(精度の高い昼光シミュレーションの実現、建築デザインへの新たなきっかけ(昼光による積極的な空間演出等)の提供、これまでに開発された昼光シミュレーションツールの普及促進。) 	
2006 年度予算	50,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有</p> <p>委員会 HP アドレス：http://graphics.arch.eng.osaka-cu.ac.jp/daylight/</p>

項目	自己評価
委員会開催数	0 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講習会に向けた意見交換は実施できた。 2. 公開可能な昼光シミュレーションソフトのインターフェースの開発が間に合わず講習会を実施することが出来なかった。 3. 委員会で収集した知見を社会に還元するため、昼光利用計画クリアリングハウスを作成し、インターネットで公開した。
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遠隔地に勤務する委員が多く、直接顔を合わせた委員会を開催することが難しかった。 2. その分、メールや Web を介したやりとりで補足を試みた。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2006 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A (B) C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本小委員会の活動成果として、次の発表を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.日射量を用いたCIE標準一般天空の天空タイプ推定手法に関する研究： 細淵勇人，吉田治典，上谷芳昭，日本建築学会環境系論文集，No.609,2006.11 2.天候指標値の範囲にもとづく天空の分離 - 京都IDMPデータにおける検討： 梅宮典子，加納隆維，日本建築学会大会学術講演梗概集(関東)環境系， pp.283-284，2006年9月 3.大阪市立大学における太陽放射昼光測定システム： 井川憲男，永村一雄，二宮秀與，菊池卓郎，日本建築学会大会学術講演梗概集(関東)環境系，pp.285-286，2006年9月 4. 離散指向光束ベクトルによる光の流れの可視化に関する研究 その1 ジオデシクドーム1280面体を用いた手法の精度の検証： 今井翔太郎，鈴木広隆，日本建築学会大会学術講演梗概集 D1,pp.317-318,2006年9月 5. 離散指向光束ベクトルによる光の流れの可視化に関する研究 その2 光環境のフェーズフラックス解析への利用： 鈴木広隆，今井翔太郎，日本建築学会大会学術講演梗概集 D1,pp.319-320,2006年9月 6. 図形科学的手法による浄土寺浄土堂内の光環境の分析 溜池における反射光の考察： 加藤嘉宏，鈴木広隆，中村芳樹，小泉隆，日本建築学会大会学術講演梗概集 D1,pp.323-324,2006年9月 <p>また、本小委員会で収集した昼光利用建築や昼光利用技術に関する情報を社会に還元するためのシステムとして、昼光利用計画(DayLight Planning)クリアリングハウス(DLP クリアリングハウスを作成した。これは、昼光利用関係の研究者の Web へのリンク、昼光利用技術に関するリンク、昼光利用関連論文の紹介、昼光利用に関するイベントのリンクなどを集めたものである。</p> <p>本小委員会の目標の一つであった「昼光利用シミュレーションの一般向け講習会」を実施することは出来なかったが、昼光利用の一般への普及という本小委員会の目的を考慮した場合、学術的活動の成果と、その社会への還元という観点から、達成度は70%程度であると判断した。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。